

# 治験センター NEWS

第38号 2018年1月 発行

今回は、臨床腫瘍科の先生方からお話をうかがいました。

## 臨床腫瘍科の治験の取り組み

がん薬物療法は、早期がん術前術後の治癒率を高めることや、進行がんの症状緩和や延命につなげることを目的として広く用いられています。効果と副作用のバランスが優れた薬剤が、薬事承認されて発売されますが、その過程において欠かせないのが、治験です。

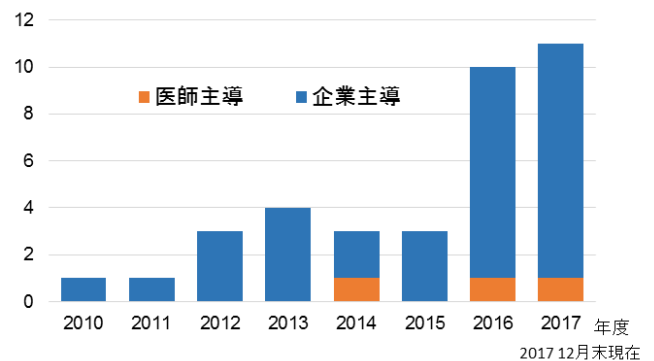
臨床腫瘍科では、治験薬や新規の併用療法と標準治療との比較を行う第Ⅲ相試験をはじめ、特定のがん種での有効性や安全性を検討する第Ⅱ相試験を主に実施しており、最近では、新たな作用メカニズムを持つ治験薬や新治療を初めて患者さんに使用し評価する第Ⅰ相試験も行っています。

各科と連携して

食道・胃・乳房・腎・尿路上皮・前立腺のがん薬物療法や、がん悪液質の支持療法などの治験を実施しています



臨床腫瘍科の新規治験開始件数

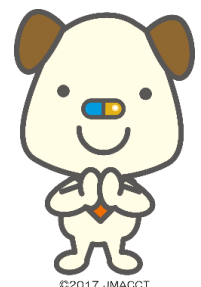


病気と向き合いながら、治験へ参加して下さっている患者さんの熱い想いに応えられるよう、私たちは、これからも、質の高い治験を実施していきたいと考えています。そのためには、各部署、各診療科の皆様のお力添えがどうしても必要です。今後もお負担をおかけしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

文責：近藤千紘 / 高野利実

臨床腫瘍科の治験は、病理部、検体検査部、放射線部、病棟、外来処置室、外来化学療法室、また臨床腫瘍科とともに癌の治療・評価にあたる各診療科のほかに、副作用発生時の治療をお願いする皮膚科、内分泌代謝科、神経内科、消化器内科、循環器内科など…一人の被験者さんに多くの部署が関わるのが特徴です。

今後とも、「より良い医療をより速く」を合言葉に、治験の速やかな導入と確実な実施のため、ご協力をお願いします。



©2017 JMACCT

問い合わせ

本院治験事務局 3430、CRC室 3420  
分院治験事務局・CRC室 5317